

# 撮影コーナーでステキな 写真を撮るためのポイント



作例写真：中村陽子

サクラ・アニュアル・ショー会場に設置された撮影コーナーで、いかにうまく記念写真を撮るか。犬の写真のスペシャリスト、写真家の中村陽子さんに撮影テクニックについてアドバイスをいただきました。

講師：中村陽子（写真家）

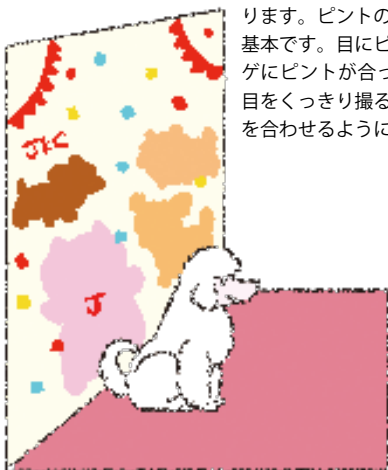
## ●画面のバランスを意識して撮る

写真を撮影する際に、ついなんとなく撮ってしまう人が多いかと思います。最近のスマートフォンにはズーム機能があるので、撮影前には犬や人を入れず、まずは「どんな距離で、バランスで撮りたいか」をイメージすることをオススメします。まず、背景に対して犬をどのように配置させたいか、どれくらいの大きさを写したいかを決めておきましょう。小型の犬であれば前側に配置し、大型の犬であれば後ろ側に配置すると上手くいきます。また、撮影場所にはリードを結んでおける用具がありますので、そこにしっかりと留めて撮影するといいでしょ。リードを犬の後ろ側に持って、隠してあげると安定します。怖がってしまう犬は、リードを横で持ってあげるなど工夫をすると落ち着いてくれるでしょう。

## ●ブレを理解して撮る

撮影時のブレは、「シャッター速度が低くなるブレ」と「手ブレ」の2種類があります。撮影時はスマートフォンを片手ではなく、両手でしっかり持つ、膝の上に乗せるなど、ちょっとした工夫をすることで安定して撮ることが出来ます。しかし、自分が動いていなくても、被写体である犬が動いてしまうと撮影が難しくなります。犬が落ち着かないときはあわてずに、1回その場を離れ、少し慣れたと思ったら再度チャレンジしてみましょう。飼い主も犬も、心に余裕を持つことが大切です。

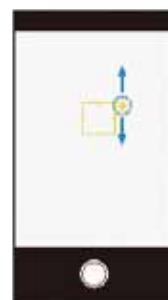
アングルを意識して、犬の高さに合わせて撮ります。ピントの位置は、目に合わせるのが基本です。目にピントを合わせても、鼻やヒゲにピントが合ってしまう場合もあります。目をくっきり撮るには、目の少し上にピントを合わせるようにするとよいでしょう。



## ●明るさを調整して撮る

背景の色、犬の色によっては、カメラが勝手に判断して明るさを調整することがありますので、撮影時は自分で明るさを調整して撮ることがポイントです。たとえば、背景が濃い色や原色の前に白い犬を置くと、カメラは暗いと判断して明るくしてしまいます。

また、黒い犬をアップ気味に撮影してしまった場合も、背景の色が濃い場合と同じくカメラがこの場所は暗いと判断して、黒い犬が白っぽく写ってしまう場合があります。明るさが自動でうまく定まらない場合は任意で調整をしてみましょう。スマートフォンには明るさのロックや、画面をタッチすることで狙った被写体にピントを合わせてくれる機能もあります。



スマートフォンの明るさ調整機能を使うと便利。

これらの機能も活用することが上手に撮影する秘訣となります

## ●アングルを意識して撮る

基本的には、少し下から犬を見上げるアングルで撮るとカッコよく撮れます。小型の犬であれば、しゃがみこんで、犬の目線よりやや下から撮りましょう。上から撮ると、地面ばかりが写ってしまうので注意が必要です。ただし、テリアなど顔にひげがある犬は、下から撮ると顔が隠れてしまいますので、飼い主はおもちゃなどを使って気を引くようにして、顎を少し下げさせて、目線のコントロールをすると上手くいくでしょう。

トリミング加工をする前提で撮影することもポイントです。画面が左右に傾くと不安定な写真になってしまいますが、上手く水平にできないときは構図を広めに撮影し、後で周囲の余白をトリミングしましょう。ただし、余白がなくギリギリのサイズで撮ってしまうと、文字や背景など、トリミングする時に残したい部分を切らなくてはなりませんので、注意が必要です。

なかむら・ようこ ●カナダトロント市在住中に犬と暮らしはじめたことをきっかけにペットの撮影を始める。2015年に(有)ドッグファーストとスタジオD1を設立。ペットや子ども撮影を得意とし、広告撮影を中心に、カメラ雑誌・愛犬雑誌やカメラメーカーの講師などで活躍する。